

平成 29 年度 STI 予防委員会研究報告

横須賀市医師会 STI 予防委員会

＜緒 言＞

横須賀市医師会と横須賀市保健所は、横須賀市内で発生する STI（Sexually Transmitted Infections=性感染症）の撲滅及び予防のために密接な協力体制を長年に亘り維持して来ている。毎年、横須賀市における STI の発生状況に対する実態調査を行っており、平成 24 年度からは調査結果を『STI 予防委員会研究報告』として横須賀市保健所のホームページ上で公開している。ここに平成 29 年度の調査結果を集計し、検討を加えたので報告する。

＜対象及び方法＞

平成 29 年 4 月から平成 30 年 3 月までの期間に横須賀市内の協力医療機関（別記）を受診した STI の症例を指定の『STI 患者報告票』に必要事項を記載した上で FAX にて横須賀市医師会に送ってもらい届け出施設と回収率を集計した後に横須賀市保健所健康づくり課の協力で集計した。集計結果については STI 予防委員会で議論された。

膣カンジダ症については症例が多いこと、必ずしも STI ではないこともあり、届け出は婦人科医の自主性にまかせ、届け出されたものについてのみ集計した。

非淋菌性尿道炎の「その他」については、クラミジア及び淋菌の検出はなかったが、明らかに STI が考えられる尿道炎につき届け出され集計した。子宮頸管炎の「その他」も同様である。

＜結果および考察＞

1. 届け出施設と回収率

各協力医療機関に対してアンケート調査を実施し、今後の届出協力可能と回答のあった 47 施設（病院 7、診療所 40）に集計を依頼した。今回、届け出に協力いただいた施設は 43 施設で回収率は 91%であった。その内訳は病院が 7/7（100%）、泌尿器科診療所 5/5（100%）、婦人科診療所 11/12（92%）、皮膚科診療所 9/11（82%）、混合科診療所 11/12（92%）であった。

2. STI の届け出総数

平成 29 年度 STI 届け出数を年令別、性別、病名別に表 1 に示した。全届け出数は 909 件で、昨年度の 747 件と比較して 162 件増加していた。過去 32 年間の届け出総数の年次推移を図 1 に示すが、昭和 61 年からのいわゆるエイズパニックにより、平成 5 年までの落ち込みがあったが、平成 6 年から横須賀市で STI を扱う婦人科、泌尿器科、皮膚科、性病科を標榜する全施設に調査を依頼するようになって急激に届け出数が上昇しており、平成 11 年には 800 例を超えている。その後毎年 600～800 件で推移していたが、平成 29 年度は初めて 900 件を超えた。

3. 疾患別の統計

1) 梅毒

初期梅毒は 23 例(男性 15 例、女性 8 例)の報告があり、平成 28 年度（8 例）

より増加していた。後期潜伏梅毒は平成 28 年度は 0 であったが平成 29 年度は 4 例（男性 3 例、女性 1 例）報告があった。図 2 に、過去 42 年間の梅毒と淋病の報告数の年次推移を示した。梅毒に関しては昭和 56 年度までは年間 100 例以上の報告があったが、その後減少の一途をたどっている。昭和 61 年のエイズパニック以降は年間 10 例以下が続いていたが、近年増加傾向がみられる。全国の定点調査では平成 25 年度より男女ともに発生の増加が報告されており、横須賀市でも同様の傾向があり、今後注視する必要がある。

2) 淋菌感染症（淋病）

淋菌性尿道炎は、男性 94 例で昨年度（68 例）より増加していた。10 代の男性は 7 例でここ 3 年同様であるが、今年度は 20-24 歳男性が 29 例（昨年 17 例）であり、この年代が増加していた。昨年同様に女性の報告はなかった。

淋菌性子宮頸管炎は 28 例であり、昨年度（15 例）、一昨年度（17 例）から増加していた。淋菌性咽頭炎は 20 代女性で一例報告されていた。

図 2 に示されているように淋菌感染症（淋病）は昭和 50 年頃から梅毒と入れかわる様に増加して来ている。昭和 60 年頃に一時エイズパニックのためと思われる減少を示したが、その後激増して、平成 11 年度からは横ばい状況であった。平成 19 年度より減少傾向になり、平成 21 年度は 58 例と著しい減少を示したが、平成 25 年度は突然 142 例と増加しており平成 27 年度には 88 例と減少している。平成 28 年度は 83 例であり、横ばいであったが平成 29 年度には再び 123 例と増加している。図 3 に淋菌性尿道炎と非淋菌性尿道炎の推移を示す。また図 4 に淋菌性尿道炎と淋菌性子宮頸管炎の年次推移を示す。この淋菌感染症の年度毎の発生数は男女ともに同様の推移が認められている。平成 29 年度の全国の定点調査でも発生数は男女ともに横ばいである。

3) クラミジア感染症

クラミジア性尿道炎は 113 例で、すべて男性であった。年齢では淋菌性尿道炎と同様に 20-24 歳での増加が顕著であった。10 代ではほぼ横ばいであった（一昨年度 10 例、昨年度 7 例、今年度 7 例）。クラミジア性子宮頸管炎は 237 例で昨年度（164 例）一昨年度（156 例）から著しく増加していた。年齢別では、20 代で 88 例から 155 例と増加しており、男性同様に 20-24 歳での増加が顕著であった。また、14 歳以下の女性でクラミジア性子宮頸管炎 3 例（昨年 2 例）、咽頭炎の報告が 1 例あり、若年層への拡散が危惧される。

図 5 に、クラミジア性尿道炎と子宮頸管炎の年次推移を示した。男性のクラミジア性尿道炎は平成 11 年度 89 例であったが、平成 12 年度 137 例と急増している。その後大きな変動はない。女性のクラミジア性子宮頸管炎も平成 12 年度に急増しているがその後男性のクラミジア性尿道炎とほとんど同様の推移を示しているが平成 29 年度に急に増加している。平成 29 年度の全国の定点調査では発生数は男女ともに横ばいであるので横須賀市の特徴といえる。

4) 性器ヘルペスと尖圭コンジローマ

初発の性器ヘルペスは 126 例（男性 30 例、女性 96 例）で昨年度 111 例（男性 26 例、女性 85 例）と比較すると男女ともに増加していた。再発は 104 例（男性 11 例、女性 93 例）で昨年度の 83 例（男性 9 例、女性 74 例）と比べて、やはり男女ともに増加していた。尖圭コンジローマは 65 例（男性 27 例、女性 38 例）で昨年度 82 例（男性 57 例、女性 25 例）と比較して女性で増加していたが逆に男性では減少していた。

図 6 に、性器ヘルペス及び尖圭コンジローマの年次推移を示す。性器ヘルペスに関してはこの 10 年間で増加傾向を示している。一方、尖圭コンジローマに関しては年度での一時的な流行はあるもののほぼ横ばいであった。性器ヘルペスについては再発ヘルペスの増加傾向にあることを考慮し、平成 22 年度からは初発と再発を区別して統計をとっている。図 7 に性器ヘルペスについて男女別、初再発別の年次推移を示したが、特に女性においては初発、再発ともに増加傾向が認められた。但し、再発に関しては同一患者の複数回受診が指摘されているため実際の人数よりは少なく、今後、登録方法の変更が必要になってくる。平成 29 年の全国の定点調査では性器ヘルペスの発生は男女ともに微増傾向であった。

5) その他

トリコモナス膣炎は 41 例と昨年度の 31 例と比べて報告数が増加していた。

陰毛しらみ症は 1 例報告されていた。一般細菌による尿道炎は 7 例と昨年度 (16 例) と比べて減少していた。一般細菌による子宮頸管炎は 26 例と昨年度 (31 例) と比べて減少していた。

4. 年令別及び性別発生頻度

全症例 909 例について、年齢別の頻度を見ると、10 歳代 69 例 (昨年度 64 例)、20 歳代 428 例 (昨年度 284 例)、30 歳代 182 例 (昨年度 173 例)、40 歳代 140 例 (昨年度 119 例)、50 歳代 47 例 (昨年度 56 例)、60 歳以上は 43 例 (昨年度 2 例) であり、20 代と 60 代で顕著に増加していた。20 代ではクラミジア性子宮頸管炎、60 代では性器ヘルペスが増加していた。60 代の性器ヘルペスに関してはほとんどが 1 年以内の複数回受診であるため実際の人数より少なく、次回より登録方法の変更が必要になると思う。

男女別の発生頻度では、男性 335 例 (昨年度 309 例) と横ばいであったが女性が 574 例 (昨年度 438 例) で、女性で増加していた。これも 60 代女性の複数回受診の影響もあると思われる。

5. 感染源

男性の感染源については、風俗での感染が 109 例 (昨年度 74 例) と増加していた。また友人も 76 例 (昨年度 66 例) と増加していた。女性では友人からの 152 例 (昨年度は 88 例)、配偶者からが 60 例 (昨年度 28 例) とともに増加していた。STI が一般に広がりを見せている可能性もあり、注視してゆきたい。また、感染源に関しては例年同様に男女ともに不明が最も多かった。

6. 感染地域

平成 21 年度から風俗からの感染に限って集計しているのでそれ以前の統計とは比較できない。平成 28 年度は横浜市が最も多く 51 例（昨年度は 25 例）以下県外 29 例(昨年度 18 例)が多く、国外での感染は 2 例(昨年度 6 例)であった。地元の横須賀は昨年度は 3 例であったが今年度は 7 例と増加していた。

<まとめ>

- *平成 29 年 4 月から平成 30 年 3 月までの期間で横須賀市内の協力医療機関を受診した STI 症例をアンケート調査をもとに集計した。47 施設中 43 施設から登録があり、回収率は 91%であった。
- *STI 届け出総数は 909 件で昨年度より 162 件増加していた。男性 335 例、女性 574 例と女性で顕著に増加していた。
- *梅毒は初期梅毒 23 例で、昨年度(8 例)より増加していた。後期潜伏梅毒は平成 28 年度は 0 であったが平成 29 年度は 4 例報告があった。
- *淋菌感染症は男性 94 例、女性 24 例と男女ともにやや増加していた。
- *クラミジア感染症は男性は 113 例と横ばいであったが女性では 237 例と顕著に増加していた。
- *性器ヘルペスは男女ともに、初発、再発ともに増加していた。特に平成 29 年度は 60 代女性の再発例が顕著に増加していたが、同一患者の 1 年以内の複数回受診があり、今後登録方法の変更が必要と思われた。
- *尖圭コンジローマは男性 27 例、女性 38 例と横ばいであった。
- *感染源では男性は例年同様に風俗からの感染が多かった。女性では平成 26 年度までは配偶者からの感染が多かったが、平成 27 年度からは友人からの感染が多く、平成 29 年度も同様であった。感染場所は横浜が最も多かったが、昨年度 3 例であった横須賀市内での感染が 7 例と増加していた。

<おわりに>

今回の調査に御協力いただいた施設の関係者の皆様には感謝申し上げます。この委員会報告は平成 24 年度からは横須賀市保健所のホームページ上で公開されていますが、全国の定点調査（厚生労働省のホームページで公開）と比較して横須賀市の特徴などを検討できればと考えておりますので今後も御協力よろしくお願い申し上げます。

文 献

1. 横須賀市医師会性病予防委員会編：平成 4 年度性病予防委員会研究報告、1992
2. 公平昭男、古畑哲彦、原上、小川英、大沢章通、松岡俊介、鈴木忍、花田剛：
横須賀市における性病および STD の動向、神奈川医学会雑誌、20、47-51、1993
3. 横須賀市医師会性病予防委員会編：平成 5 年度性病予防委員会研究報告、1993
4. 横須賀市医師会性病予防委員会編：平成 6 年度性病予防委員会研究報告、1994
5. 横須賀市医師会性病予防委員会編：平成 7 年度性病予防委員会研究報告、1995
6. 横須賀市医師会性病予防委員会編：平成 8 年度性病予防委員会研究報告、1996
7. 横須賀市医師会性病予防委員会編：平成 9 年度性病予防委員会研究報告、1997
8. 横須賀市医師会 STD 予防委員会編：平成 10 年度 STD 予防委員会研究報告、1998
9. 横須賀市医師会 STD 予防委員会編：平成 11 年度 STD 予防委員会研究報告、1999
10. 横須賀市医師会 STD 予防委員会編：平成 12 年度 STD 予防委員会研究報告、2000
11. 横須賀市医師会 STD 予防委員会編：平成 13 年度 STD 予防委員会研究報告、2001
12. 横須賀市医師会 STD 予防委員会編：平成 14 年度 STD 予防委員会研究報告、2002
13. 横須賀市医師会 STD 予防委員会編：平成 15 年度 STD 予防委員会研究報告、2003
14. 横須賀市医師会 STD 予防委員会編：平成 16 年度 STD 予防委員会研究報告、2004
15. 横須賀市医師会 STD 予防委員会編：平成 17 年度 STD 予防委員会研究報告、2005
16. 横須賀市医師会 STD 予防委員会編：平成 18 年度 STD 予防委員会研究報告、2006
17. 横須賀市医師会 STD 予防委員会編：平成 19 年度 STD 予防委員会研究報告、2007
18. 横須賀市医師会 STD 予防委員会編：平成 20 年度 STD 予防委員会研究報告、2008
19. 横須賀市医師会 STD 予防委員会編：平成 21 年度 STD 予防委員会研究報告、2009
20. 横須賀市医師会 STD 予防委員会編：平成 22 年度 STD 予防委員会研究報告、2010
21. 横須賀市医師会 STI 予防委員会編：平成 23 年度 STI 予防委員会研究報告、2011
22. 横須賀市医師会 STI 予防委員会編：平成 24 年度 STI 予防委員会研究報告、2012
23. 横須賀市医師会 STI 予防委員会編：平成 25 年度 STI 予防委員会研究報告、2013
24. 横須賀市医師会 STI 予防委員会編：平成 26 年度 STI 予防委員会研究報告、2014
25. 横須賀市医師会 STI 予防委員会編：平成 27 年度 STI 予防委員会研究報告、2015
26. 横須賀市医師会 STI 予防委員会編：平成 28 年度 STI 予防委員会研究報告、2016

表1 病名・年齢・性別集計

(平成29年度)(単位:人)

病名 コード	病 名	性別	合計	0-14	15	16	17	18	19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-	年齢 不明
1	梅毒(初期)	男	15	0	0	0	0	0	0	5	2	1	1	1	4	0	1	0	0
		女	8	0	0	0	1	1	1	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0
2	梅毒(後期潜伏)	男	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
3	梅毒(先天性)	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	性器ヘルペス(初発)	男	30	0	0	0	0	0	3	11	4	2	1	1	4	1	0	3	0
		女	96	1	0	0	1	2	2	17	16	6	11	9	10	8	5	8	0
5	性器ヘルペス(再発)	男	11	0	0	0	0	0	0	2	2	0	1	2	2	0	0	2	0
		女	93	0	0	0	0	0	0	11	22	7	6	6	17	5	2	17	0
6	尿道炎(クラミジア)	男	113	0	0	1	0	1	5	38	19	12	13	13	5	4	1	1	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	尿道炎(淋菌)	男	94	0	0	0	0	2	5	29	12	5	9	13	8	5	3	3	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	尿道炎(一般細菌)	男	7	0	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	2	0	0	1	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	尿道炎(トリコモナス)	男	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10	尿道炎(その他)	男	34	0	0	0	1	0	0	2	9	7	5	3	3	3	1	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	子宮頸管炎(クラミジア)	女	237	3	5	1	4	9	7	93	62	33	9	6	4	0	1	0	0
12	子宮頸管炎(淋菌)	女	28	1	0	1	0	0	1	11	3	7	1	1	2	0	0	0	0
13	子宮頸管炎(一般細菌)	女	26	0	0	0	0	0	0	5	4	10	5	1	0	1	0	0	0
14	子宮頸管炎(その他)	女	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
15	トリコモナス膣炎	女	41	0	0	0	0	2	2	8	9	6	2	4	5	1	1	1	0
16	陰毛しらみ症	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
17	尖圭コンジローマ	男	27	0	0	0	0	3	0	1	0	7	2	5	2	2	1	4	0
		女	38	0	0	0	2	0	0	11	9	5	4	4	2	0	0	1	0
18	咽頭炎(淋菌)	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
19	咽頭炎(クラミジア)	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	2	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20	その他	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	合 計		909	6	5	3	9	20	26	252	176	111	71	70	70	31	16	43	0

表2 STI の感染源

(平成 29 年度)(単位:人)

感染源	小 計	男	女
不明	492	135	357
友人	228	76	152
配偶者	69	9	60
風俗	112	109	3
その他	8	6	2
合計	909	335	574

表3 STI の感染場所(感染源:風俗)

(平成 29 年度)(単位:人)

感染場所	小 計	男	女
横須賀市	7	7	0
横浜市	51	51	0
川崎市	8	8	0
相模原市	1	1	0
鎌倉市	0	0	0
逗子市	0	0	0
三浦市	0	0	0
葉山町	0	0	0
その他県内	1	1	0
県外	29	29	0
国外	2	2	0
不明	13	10	3
合計	112	109	3

表4 淋菌及びクラミジア感染症の推移

(単位:例)

年 度	淋 菌		クラミジア		計
	男	女	男	女	
平成 11 年度	145	20	89	159	413
平成 12 年度	118	13	137	221	489
平成 13 年度	142	17	165	184	508
平成 14 年度	121	16	162	190	489
平成 15 年度	114	12	135	180	441
平成 16 年度	121	22	152	192	487
平成 17 年度	103	13	123	181	420
平成 18 年度	110	17	133	167	427
平成 19 年度	79	19	123	151	372
平成 20 年度	71	8	98	161	338
平成 21 年度	47	11	108	180	346
平成 22 年度	61	15	103	180	359
平成 23 年度	84	22	118	172	396
平成 24 年度	79	16	132	209	436
平成 25 年度	109	33	149	196	436
平成 26 年度	111	24	152	188	475
平成 27 年度	70	18	120	161	369
平成 28 年度	68	15	103	171	357
平成 29 年度	94	29	113	239	475

図1 STIの届け出総数の年次推移

平成29年度 909例

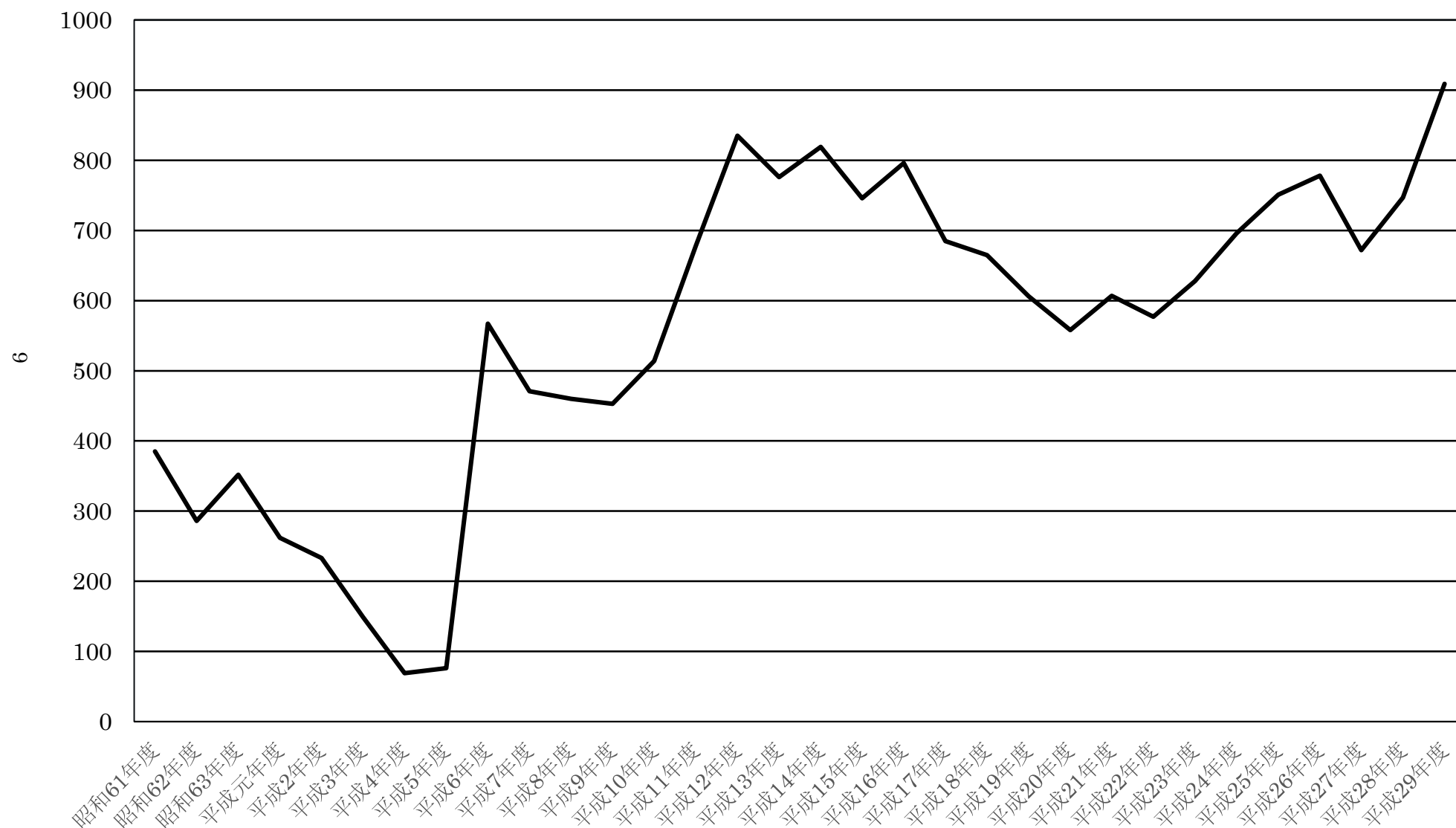


図2 42年間の梅毒・淋病報告数年次推移 平成29年度 梅毒27例、淋病123例

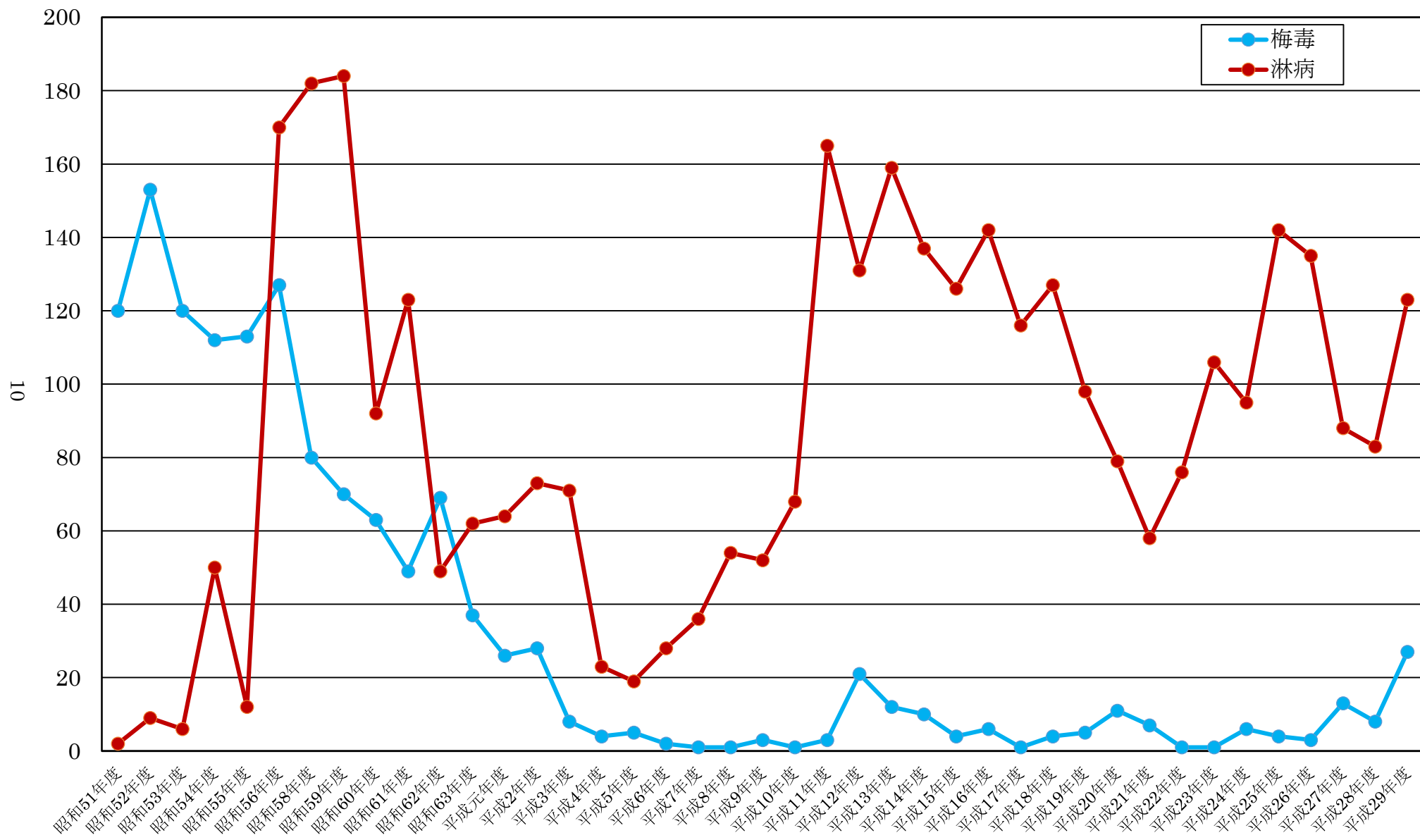


図3 35年間の尿道炎報告数年次的推移

平成29年度 非淋菌性尿道炎155例、淋菌性尿道炎94例、全尿道炎249例

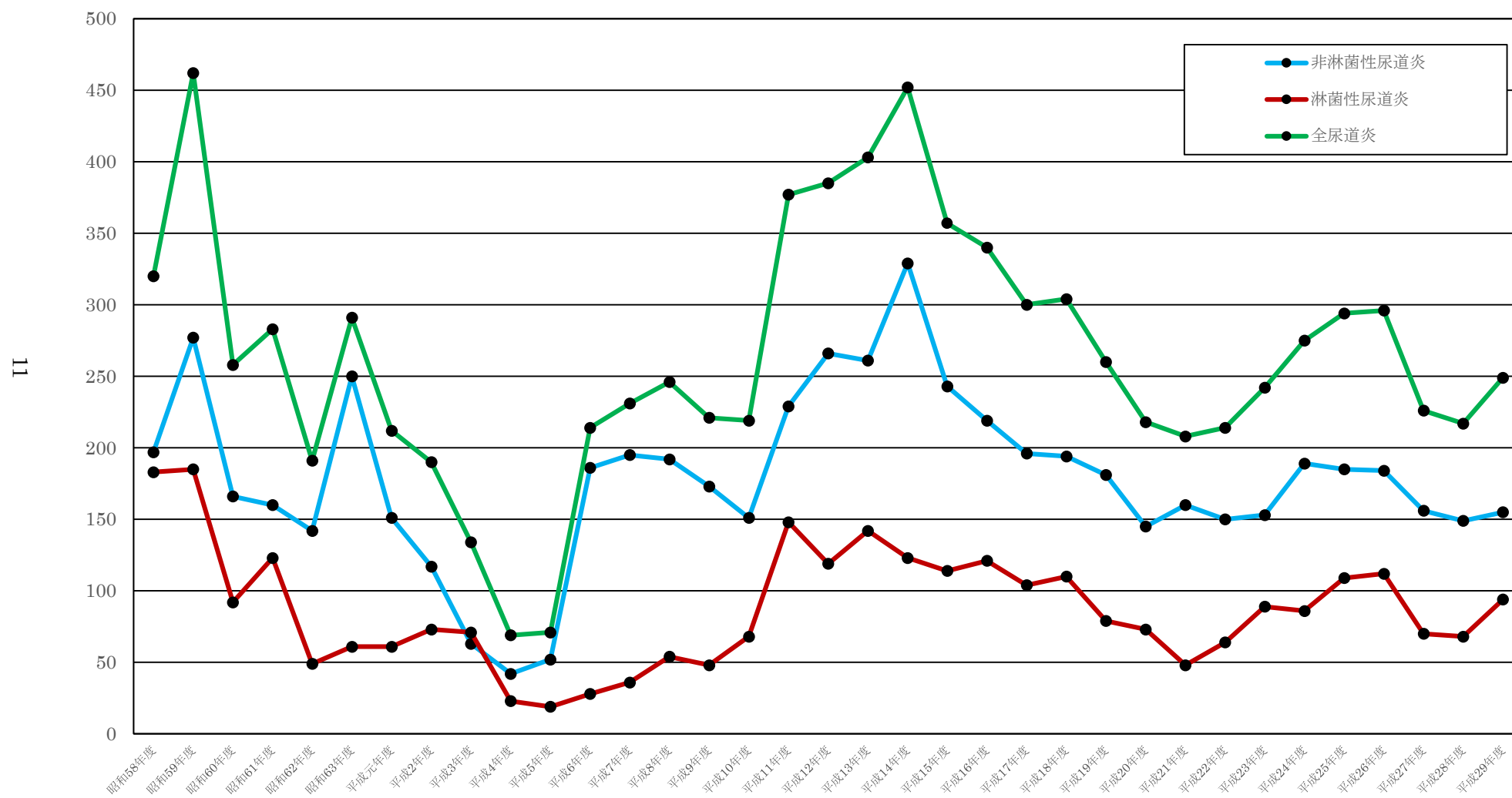


図4 淋菌性尿道炎と子宮頸管炎の年次推移

平成29年度 淋菌性尿道炎94例、淋菌性子宮頸管炎28例

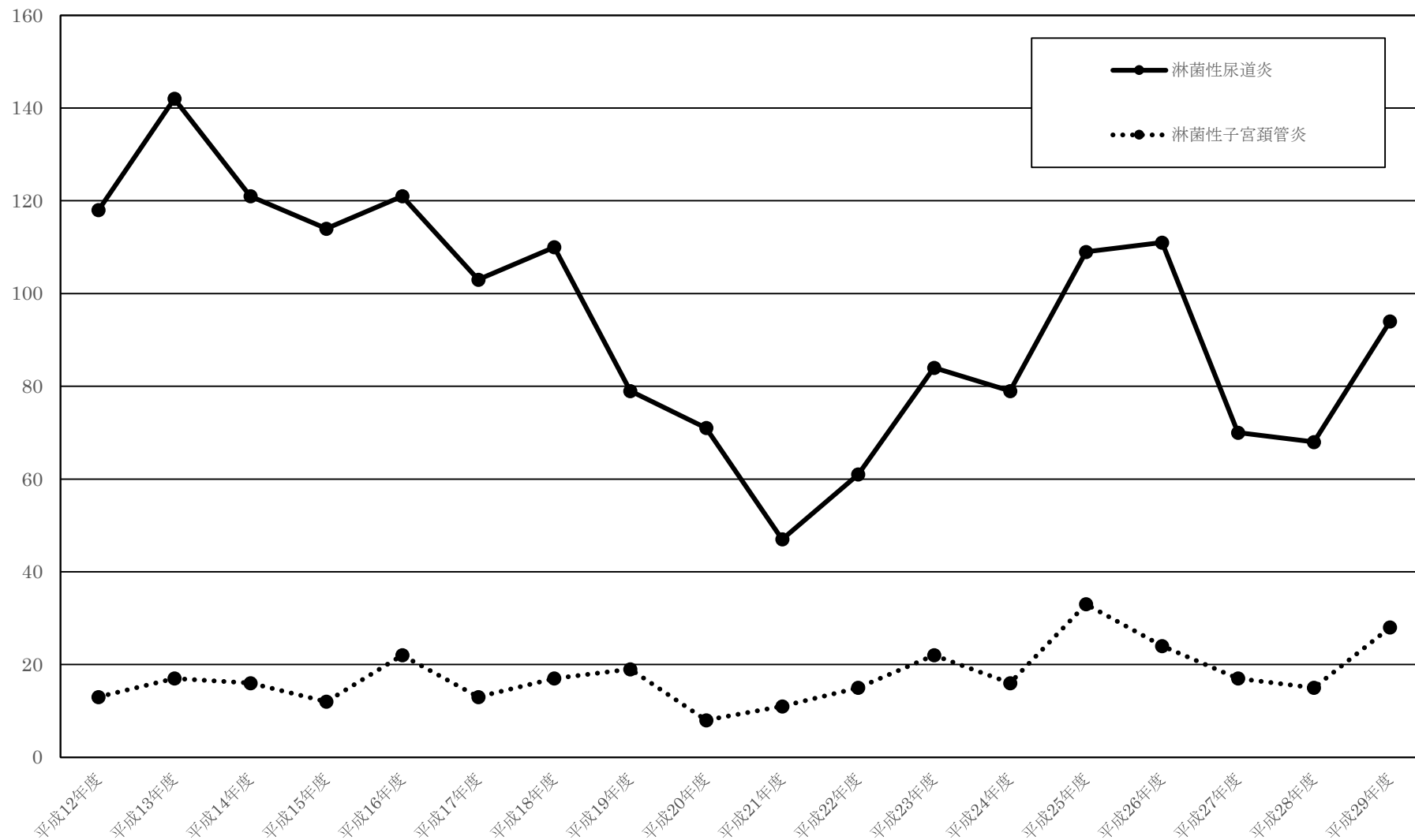


図5 クラミジア性尿道炎と子宮頸管炎の年次推移

平成29年度 クラミジア性尿道炎113例、クラミジア子宮頸管炎237例

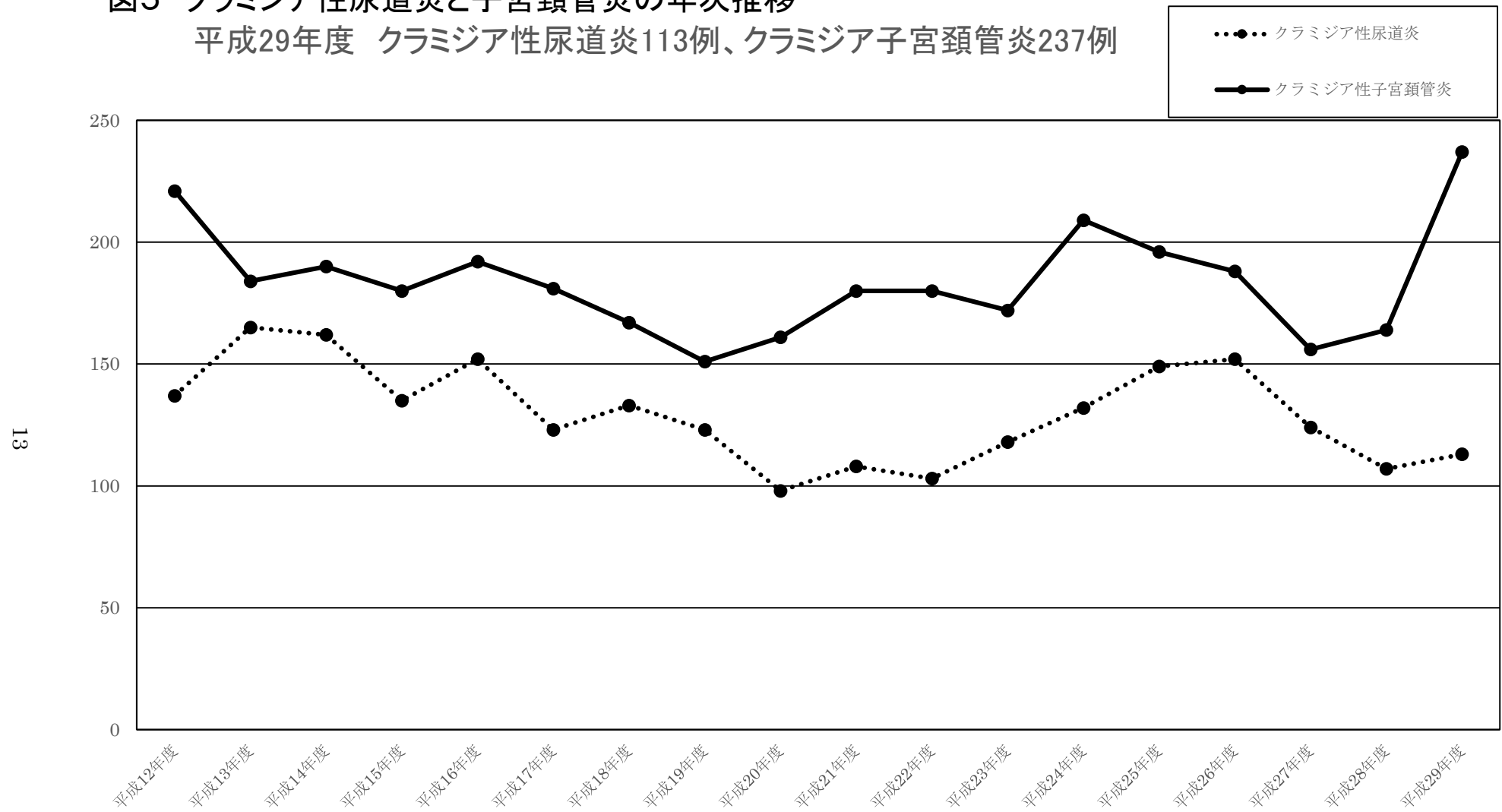


図6 性器ヘルペス及び尖圭コンジローマの年次推移

平成29年度 性器ヘルペス230例、尖圭コンジローマ65例

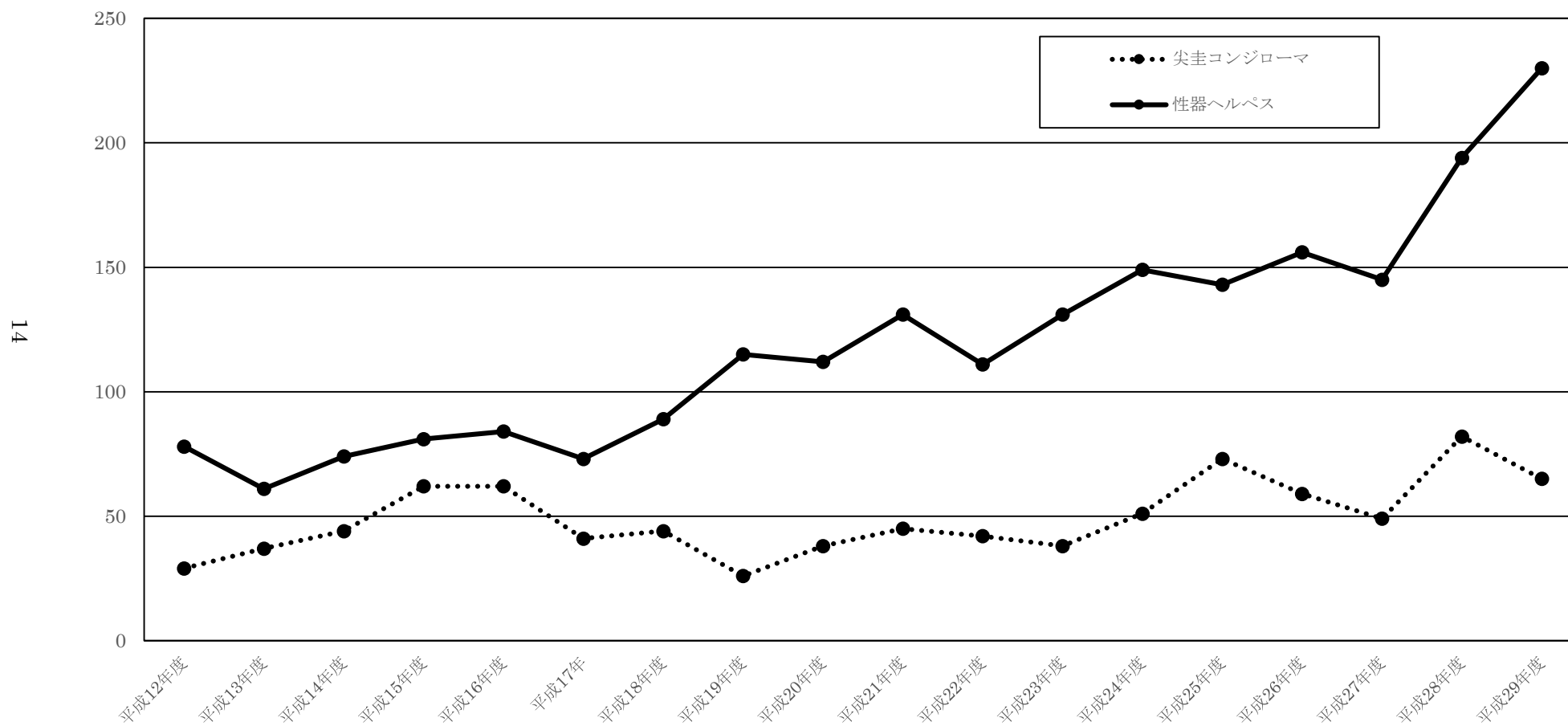
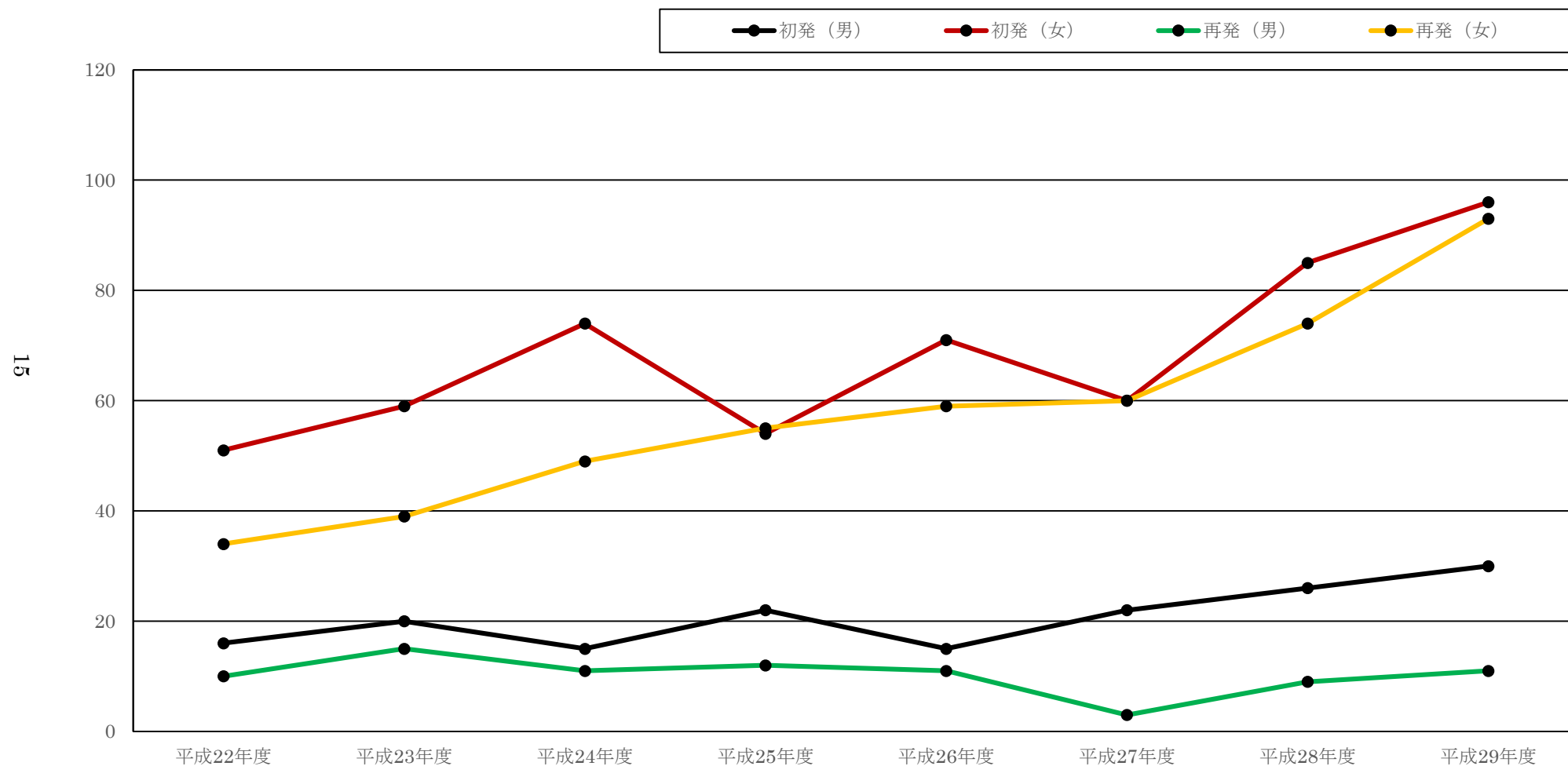


図7 性器ヘルペスの年次推移(男女別、初再発別)

平成29年度 初発(男)30例、初発(女)96例、再発(男)11例、再発(女)93例



・ S T I の届け出にご協力下さいました各施設の方々に、深く感謝いたします。

＜平成 29 年度 協力医療機関＞

【泌尿器科】

久里浜泌尿器科クリニック、里見腎泌尿器科、ふくおか泌尿器科クリニック、古畑泌尿器科クリニック、よこすか女性泌尿器科・泌尿器科クリニック

【産科・婦人科・産婦人科】

今井ウィメンズクリニック、内出医院、うみかぜレディースクリニック、追浜駅前ようこレディースクリニック、国立クリニック、くりはま優レディースクリニック、高レディースクリニック、後藤産婦人科医院、小松原レディースクリニック、桜が丘診療所、佐々木医院、鈴木産科婦人科医院、つのだレディースクリニック、鳥海医院、パクスレディースクリニック、横須賀マタニティクリニック

【皮膚科】

いまざわ皮フ科、金丸皮膚科、久里浜駅前皮フ科、コスモス皮膚科、さくら皮膚科、すずらん皮膚科クリニック、中林皮膚科、中村皮膚科、峯村皮膚科クリニック、みやざわ皮膚科、安田内科・皮ふ科

【その他医院】

青山医院、いまにしクリニック、工藤医院、齋藤医院、湘南グリーンクリニック、鈴木クリニック、同胞援護会衣笠診療所、中村外科整形外科

【総合病院】

衣笠病院、自衛隊横須賀病院、湘南病院、よこすか浦賀病院、横須賀共済病院、横須賀市立うわまち病院、横須賀市立市民病院